

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和5年度第2回 社会教育委員会議及び公民館運営審議会
2 開催日時	令和6年2月16日(金) 午後2時～午後4時
3 開催場所	河内長野市役所7階行政委員会室
4 会議の概要	(1) 令和6年度からの生涯学習部内の組織の変更について (2) 赤峰市民広場の廃止と新たな基金の創設について (3) 公民館及びくろまる塾の令和6年度事業計画について (4) 生涯学習情報の提供について (5) その他 ・河内長野版「歳時記」について ・令和5年度図書館年報について
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 生涯学習部 文化・スポーツ振興課 (内線 746)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和5年度第2回河内長野市社会教育委員会議及び公民館運営審議会 報告

日 時：令和6年2月16日（金）午後2時～午後4時

会 場：市役所7階行政委員会室及びオンライン

出席者：木之下議長、松原委員、田中委員、島田委員、曾和委員、吉田委員、原田委員、
上嶋委員、中道委員、杉本委員
松本教育長、小川生涯学習部長、伊藤文化財保護課長、西野地域教育推進課長、
山本図書館館長補佐、浦市民交流センター長、
二井文化・スポーツ振興課長、東課長補佐、濱田主幹、山口係長、花井主査、四位係員

（花井主査）

ただ今から、令和5年度第2回社会教育委員会議及び公民館運営審議会を開会させていただきます。委員の皆様には、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます文化・スポーツ振興課の花井です。開会に先立ち、本日の資料の確認をさせていただきます。先日お送りしました次第や議案資料をご持参いただいておりますか。また、本日配布分として、千代田公民館に関するネーミングライツ契約締結セレモニーの案内と、本日、原田勝次委員から昨年ご参加いただいた研修についてご報告いただきますが、参考資料としてご提供くださった資料も袋に入れてお配りさせていただいております。

—資料確認—

ZOOMでご出席の皆様には、その都度、画面共有させていただきますのでご容赦ください。

それでは、本日の委員の皆様の出席状況をご報告申し上げます。河内長野市社会教育委員会議規則第9条及び公民館運営審議会規則第7条の規定により、14名の委員うち半数となる7名以上の出席が必要となっております。現在10名様の出席と、欠席4名で会議成立の要件を満たしておりますので、ただ今から社会教育委員会議及び公民館運営審議会を開会させていただきます。それでは、開会にあたり、松本教育長から一言ごあいさつを申し上げます。

（松本教育長）

本日の案件は、公民館及び市民大学くろまる塾に係る令和6年度計画案などについてご意見を頂戴したいと考えております。特に公民館運営審議会としては一昨年、公民館事業として参加者数ではなくて定性的な評価基準を定め、その評価基準に基づいて各館では、既存事業にとらわれず、意義深い講座に取り組み、結果、スタッフの意識も変わり、講座の構成においてもそういう講座も多くなってきています。引き続き、委員の皆様より前向きな評価をいただき、改善余地のある点など、アドバイスをいただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願いいたします。また、市民交流センターは、指定管理から直営に戻して以来、2年たちましたが、改めてそろそろその在り方を固めて、生涯学習施設として、社会教育施設としてハード面ソフト面から充実を図ってまいりたいと努めているところです。近年、社会の変化、時代の変化の中で、ニーズとしての社会教育課題は多岐な分野にわたっています。施策の推進には、委員の皆様のご様々な見地からのご指導や実践からのご

助言をお受けして、参考にしていきたいと考えています。中でも公民館は社会教育の学校と言われており、社会が求めるテーマを取り上げて講座を企画するように、努力をしているところですが、社会や地域の課題に対応した企画はまだまだかと思えます。地域の課題の解決にも取り組む、また人材の発掘育成という点については、まだ時間がかかっています。ただ、十分に力を尽くしていかなければならないと認識はしています。本日は幅広い意見を委員の皆様から頂いて、本市の社会教育は必要不可欠なものであり、社会教育の必要性について否定的な意見は払しょくしていきたいと思えます。来年度の施策にも展開していきたいと思っています。

(花井主査)

—出席者紹介—

それでは、木之下議長、議事進行よろしくをお願いいたします。

(木之下議長)

それでは、案件（1）令和6年度からの生涯学習部内の組織の変更について、事務局より説明をお願いします。

(二井課長)

案件1 「令和6年度からの生涯学習部内の組織の変更について」説明させていただきます。

—案件1資料に沿って説明—

(木之下議長)

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴します。

(木之下議長)

社会教員委員会議の所管はどこの課になりますか。

(二井課長)

社会教育課になります。

(木之下議長)

文化連盟がラブラリーホールで行っている活動は、今後はどこの課に相談しますか。

(二井課長)

文化課になります。

(木之下議長)

社会教育課の移転先はどこになりますか。

(二井課長)

本庁7階から市民交流センター3階になります。

(木之下議長)

続きまして、案件(2)赤峰市民広場の廃止と新たな基金の創設について、事務局より説明をお願いします。

(濱田主幹)

案件2「赤峰市民広場の廃止と新たな基金の創設について」を説明させていただきます。

—案件2の資料に沿って説明—

(木之下議長)

それでは、続きまして、案件(3)公民館及び市民大学くろまる塾の令和6年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。

(山口係長)

案件3「公民館及び市民大学くろまる塾の令和6年度事業計画について」のうち、公民館に係る事業計画についてご説明します。

資料「令和6年度公民館講座計画」をご覧ください。8つの公民館で合計約150講座の計画を記載しております。時間に限りがありますので、各公民館が特に力を入れている主な講座を、令和6年度公民館講座本庁連携講座(重点企画)にまとめましたのでご紹介させていただきます。

まず、天野公民館が特に力を入れて企画した講座を2つ挙げていますが、人権シリーズ講座についてご紹介します。3回連続講座で、様々な人権問題について、トランスジェンダーや聴覚障がい当事者の話を聞き、受講者同士意見交換することで、人権問題を考える機会を作ることを目的としています。

続いて、天見公民館は、高野山大学教育学科と連携した、親子向けの2回連続講座を企画しました。この講座は自然豊かな天見公民館周辺の環境を活かした親子体験講座で、親子の絆を深めることと、親同士子ども同士の仲間づくりを目的としています。

続いて、加賀田公民館が特に力を入れて企画した講座を2つ挙げていますが、国際理解・多文化共生講座についてご紹介します。この講座は昨年2回連続講座で実施した「もっと知りたい!ベトナム」講座の続編で、地域の介護施設「寿里苑フルール」と連携した講座です。市内在住外国人は国別でベトナム人が最も多く、寿里苑フルールには約15名の従業員がおり、加賀田地域に多く在住していることから、昨年、ベトナム人従業員と地域住民の交流を目的に実施しました。講座後、講座参加者とベトナム人従業員からもっと交流したいとの声があり、第2弾講座で更なる交流促進を目的としています。

続いて、川上公民館は、健康講座で仲間づくりをテーマに5回連続講座を企画しました。健康意

識の高い高齢者同士で睡眠、運動、食事など様々な健康の知識を深め合い交流を図ることで、仲間づくりを目指して外出促進やフレイル予防に繋げることを目的としています。

続いて、高向公民館は、高向の地域学と題して6つのテーマについて学ぶ4回連続講座です。文化財保護課など市の他部署や地域住民を講師に迎え、現地を訪れ、地域の魅力を実感することで、住民の郷土愛を育み、地域のために率先して行動できるような地域人材を育成することを目的としています。

続いて、千代田公民館は、昨年、大阪教育大学ゼミと共同企画して実施したワークショップの続編を考えています。昨年は、大阪教育大学のゼミ生や教員がコーディネーターとなり、千代田中学校美術部の有志の学生約10名が参加して、1年間かけて千代田公民館の自習室を、中学生がデザインしてリニューアルしました。今回は、その第2弾として、千代田中学校美術部の生徒たちが、地域のために何ができるのか何がしたいのか、大学生など大人のサポートを受けながら、公民館活性化に繋げることを目的としています。

続いて、南花台公民館は、「女子サッカークラブ・スペランツァ大阪を応援しよう」と題して、今年度に引き続き第2弾の連続講座を考えています。令和8年度にUR南花台団地跡に同クラブの本拠地機能をもつサッカースタジアムが完成予定であることから、昨年スペランツァ大阪と連携して、地域住民の機運を高めサポーターを養成するような仲間づくりの支援を目的に3回連続講座を開催しました。今回は、これまでの目的に加えて、選手と住民の交流促進も目指します。

最後に三日市公民館は、能登半島地震で住民の防災意識が高まっていることから、防災をテーマにした2回連続講座を企画しました。阪神大震災の被災者による体験談や大阪管区気象台の専門家による防災気象情報の活用について学び、受講後に参加者同士で意見交換することで、住民の防災意識向上を図り、各家庭で防災への備えの実践と災害時に率先して行動できる防災人材育成を目的としています。

以上で説明を終わります。

(浦センター長)

引き続き、市民大学くろまる塾に係る事業計画について、ご説明します。

市民大学くろまる塾は、生涯学習推進計画に基づき、市民が学習意欲をもち、「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも・みずから」学ぶことを目的とした仕組みです。これまでの社会教育委員会にて委員の皆様から頂いた助言を踏まえ、令和6年度は17講座を実施し、そのうち3講座、新たな取り組みを盛り込みました。くろまる塾ボランティアの皆さんから提案を募り、ご近所ドクター、韓国ドラマ、傾聴力という形で盛り込みました。また、子どもを対象とした講座ですが、今年度実施した漢字探検隊にフィールドワークを加えたものを取り入れて実施するほか、新たにロボット講座を10回程度で実施する予定であり、大阪のロボット大会に参加できるレベルまで行くことを目標において、取り組んでいきたいと思っています。最後に、学位授与式は、今年度はキックスイベントホールで実施したものの、授与された方は3名という状況でした。そこで、イベントホールで式典という形で行うのではなく、市長室で市長から授与するとともに、その後懇談を行う形に変更したいと考えております。

以上で説明を終わります。

(木之下議長)

案件2から案件3の内容について、委員の皆様からご質問があればお願いします。

(上嶋委員)

学位授与式にはいつも参加させてもらっています。(これまでの開催方法では、授与された方と市長が話をする時間もあまりないので)、市長との懇談形式は1つの方向性としてよいと思います。

(木之下議長)

公民館等たくさん講座を企画していてすごいと思いました。ここまで生涯学習が充実しているのは誇りに思える。学習したことを皆で活かせていけたらより良いのではと思います。

(吉田委員)

いろんなジャンルの講座をしてくれています。行きたい講座も増えています。ところで、ロボットの講座10回実施とのことですが、子どもの興味がある講座と思いますが、土日に開催ですか。子どもたちもいろいろ忙しいと思いますが。

(浦センター長)

土曜日の午前、各2時間程度を予定しています。ロボットはキットがあって、パソコンもあって、それをつないで、プログラムして動かすというものです。小学3年生から高校生を対象としているのは、大阪で実施される大会の出場資格がこの年代となっているからで、世界大会もありますが、まずは大阪大会を目指してもらおうと考えています。

(島田委員)

いろんなイベントを考えてくれています。地域住民の皆さんに参加していただき、いろんな体験をもっとしてくれたらと思います。

(原田委員)

ロボットの講座に興味があります。重点講座もそうだが、わかりやすいキーワードが入っていると関心を持ちやすい。ベトナムの人との交流などもよいと思います。

(松原委員)

加賀田地区でも進んでいるが、公民館活動と小学校の融合はすごく楽しみです。各小学校区に公民館があり、より近くの方が身近な公民館へいろんな立場で出向く機会があって良いと思います。今後も公民館活動を発展させていってくれたらと思います。

(曾和委員)

先日、高野山大学の習字の作品展があり、例年だったらラブリーホールでされていたのに、今年度は天野山金剛寺でされていました。あまり周知する間がなく、例年より参加者が少なかったと聞きます。このようなことは把握していますか。

(二井課長)

市の後援名義を取得されていれば把握できますが、個々の皆さんが開催されるイベントまではわかりません。ただ、現在、生涯学習情報を収集し、掲載するサイトの充実を図ろうとしています。市民の皆さんのイベント情報などの掲載もできます。この後で、説明をする予定です。

(上嶋委員)

多文化共生の視点で、韓国ドラマの講座は興味深く感じます。災害時など、日本人と外国人が共に助け合う場面が増えていく中で、習慣などお互いをもっとよく知る必要があります。市内だけではなく、世界に目を向けて、広い視点でとらえられるようになっていく必要があると思います。

(松原委員)

ロボットは、工業高校の大会みたいなもの（ロボコンのこと）の出場を狙っていますか。

(浦センター長)

ダイセン工業という企業に講師など協力を依頼しますが、この会社が日本大会を取りまとめしていて、その大阪大会出場を目指しています。内容は（高度なものではなく）、車型の既存ロボットを規定の線に沿って走らせるか（プログラムできるか）といったいくつかの部門があります。講座の中で、その大会に出ることができるぐらいの子どもが出てきたらと期待しています。大会に出場したいとなった場合、会社を開放してサポートもしているので、講座修了後もそこで学ぶことができます。なお、ロボコンのように自分たちでロボットを作るわけではありませんが、大会に出るにはロボットを買う必要があります。

(中道委員)

魅力的な取り組みが多数ありますが、点で終わらない工夫がされるのかが気になります。面白かったではもったいない。そこが社会教育の腕の見せ所です。主体的に学びを深められるようにしてほしいと思います。ファシリテートをしてくれる方がいるといいと思います。

(杉本委員)

多彩な講座があるが、気になる点があります。スペランツァを応援する講座はユニークではあるが違和感があります。公民館というのは公益性を考えていかないといけない。公益性に即しているかを評価の一つとしないといけないが、こういう講座の目的の中にSDGsの位置づけをしてはどうでしょうか。SDGsの中のどこにあたるかで公益性を担保する方法があります。大阪マラソン

にかかわるチャリティー団体もSDGsのこれにあたるという表明をしている。避けて通れないのはこういう講座や事業の中でSDGsのどれにあたるのかということ。そういう点で違和感があるというのが一つ。それと、学習指導要領が変わり、学校では探求型の学習をしていこうという流れになってきている。講座も探求型ということでワークショップなどを通して、自分たちで探求していくのが望ましい。先ほど、ロボットの講座の話があったが、これもプログラミング教育の一環かと思うが、学校現場では探求型の学びというより、プログラミングができるかで評価している。本来の意図とは違った形で授業が展開されているところが見受けられる。講座の在り方として知識の習得ではなく、探求型の講座の在り方を努力する必要があると思う。

(曾和委員)

スペランツァはプロのチームですか。プロのサッカーグラウンドができるということですか。子どもたちのグラウンドはどうなるのでしょうか。

(山口係長)

スペランツァはプロのサッカーチームですが、現在、市では、南花台地区でスマートエイジングシティという自動運転などテクノロジーを生かしたまちづくりを進めています。その中で、空き室が目立つUR団地の跡地を活用して、女子サッカーチームを本市が誘致した経緯があります。しかし、住民の機運が盛り上がり足りないところがあり、公民館として住民の絆づくりなどで貢献できないか、また、市の施策を啓発するという点においても取り組んでいるところです。SDGsに位置づけてはどうかという点ですが、天野公民館では現在すべての講座にSDGsのナンバーを設定しています。今回の講座はSDGsの17ある目標の中で11番の住み続けられる街づくりというところにあたるのではないかと考えています。南花台は高齢化も進み、コロナ禍があったので、地域の住民のつながりも希薄化しているようなところもありますので、地域住民で仲間づくり、団結することで、災害時にも自助・共助の機能が発揮できるのではないかと思います。住民が女子サッカーチームについて理解を得られなければ、騒音問題や車の渋滞など視点を変えれば市民の迷惑にも感じられてしまうが、理解が深まってくれば盛り上がっている・活気があると感じると思いますので、公民館としてできることを補強していきたいと取り組みを進めています。

(杉本委員)

説明はよくわかりました。ただ、目的のところに書かれていないと誤解されると思います。目標と目的は違うので、きちんと「目的」が書かれているかご検討をお願いします。スペランツァが地域貢献で活動されていることは知っています。プロサッカーが地域貢献を挙げていて、その活動の自体に問題があるとは思っていません。地域おこしであることを(講座の目的として)はつきりとうたう必要があると思います。

(木之下議長)

公民館がたくさん講座をされているのは素晴らしい。自分も参加者や利用者として公民館に行

くことがあります。大きな問題として、子どもたちが近寄りやすいのか、現実として若者が参加していません。以前、公民館を夜開けてもらったこともあります。利用があまりなかった。中学校区ごとにあり、本当は行きやすい。いい意味で若者のたまり場みたいになってもいい場所。災害を含め、何が起こるか分からない現代において、ただ講座をやるだけでなく、人と人がつながるようなしかけ、いろんな人が立ち寄るようにしてほしいと思います。

(東課長補佐)

昨年、この社会教育委員会議で、公民館の事業計画について「目的」が見えにくいというご意見を頂いたことを踏まえて、公民館スタッフの意識付けも含めて、何のために学びを提供するのかを意識しながら事業計画を立てました。公民館では重点講座を選んで目的を追求しています。子ども向け、親子向けも含まれてはいますが、やはり大人向けが多くなっているのが現状です。今後の課題として、いかに児童・生徒に公民館に来てもらうか。講座だけではなく、来やすい施設、若者の居場所としての公民館をどう作っていくか。また、子ども向けの講座をどう集約して説明させていただくかも課題であると認識しています。

(中道委員)

今の学習指導要領が社会に開かれた教育課程と言われています。社会教育施設と学校が連携し、子どもたちの探求の場所として公民館が一役買ってほしい。学校側もどうしていいか困っていると思います。社会教育側から手を差し伸べてほしい。学校の先生も子どももハッピーになれる連携を考えてほしいと思います。

(木之下議長)

続きまして、(4)生涯学習情報の提供について、事務局から説明をお願いします。

(花井主査)

それでは、案件4生涯学習情報の提供について、説明させていただきます。

本市の第2期生涯学習推進計画では、市民大学くろまる塾の中心的な機能として、「生涯学習情報の収集・整理・発信」が挙げられております。そこでこのたび、この機能を充実するため、生涯学習情報に関する新たなホームページの開設についてご説明させていただきます。

現在、本市ホームページにおきまして、次のような生涯学習情報を発信しております。生涯学習という分類では、市民交流センター、図書館、公民館、文化会館など主に各施設から発信される情報を集約しております。一方で、生涯学習情報提供システム学びやんねっとは、次の情報を文化・スポーツ振興課が収集し、掲載しています。講師・ボランティア情報、刊行物・冊子・ビデオ情報、団体・グループ情報。長年、このような形で情報を提供しておりますが、改めて情報を必要とする市民の立場から見ますと、公民館、市民交流センター、講師情報、団体情報など関連すると思われる情報が分散しており、また、多くの市民が求めているであろう講座情報も、各施設から発信しているため分かりにくくなっています。

そこで、このたび、新たに「市民大学くろまる塾プラス」というウェブサイトを立ち上げ、市民交流センターで開催される生涯学習講座、公民館で開催される社会教育講座、さらに各課が主催するくろまる塾認定講座などの情報集約を目指します。また、この新たなウェブサイトの開設に伴い、生涯学習情報提供システム学びやんねっとの掲載情報を精査し、古くなった情報を整理するとともに、刊行物・冊子・ビデオ情報は図書検索でも代替できることから削除いたします。さらに、公民館のホームページは統一的な見出しでそろえるとともに、講座情報がどこにあるかわかりやすいデザインとします。このほか、市職員を講師として派遣する「まちづくり出前講座」の講座メニューも掲載し、いずれはインターネットで申し込み受付を行う形にしたいと考えています。

説明は以上となりますが、市民の皆様役に役立つ生涯学習情報をいかにお届けするか。この「届ける」というのは、単に知ってもらうだけではなく、講座に参加したり、学習を始めたりといった具体的な行動に移していただくことになろうと思います。そのような情報発信のこれまでとこれから、課題と解決方法、そして、目指す方向性をまとめたものが、お手元の紙資料となりますので、ご一読ください。

最後に、今後のスケジュールとなりますが、3月末までにウェブサイトを稼働し、4月からは、新たな社会教育課において、積極的に、生涯学習情報の収集・整理・発信をしていきたいと考えています（※5月以降の開始に延期しました）。これにて、生涯学習情報の提供についての説明を終わります。

（木之下議長）

生涯学習情報、特に学びやんねっとは情報が更新されておらずがっかりしたことがあります。良い取り組みだと思えます。

（松原委員）

地元の人材情報を登録されているので、活用したいと思えます。

（杉本委員）

工夫されていて見やすくなっていると思いますが、講座を受けたいと思った時、申し込みまで行けるのでしょうか。

（花井主査）

講座情報をクリックすると、公民館や交流センターのサイトにつながり、そこからフォームを開いて申込できる形に持っていきたいと考えています。

（杉本委員）

インターネットで申込できる形になるのですか。

（花井主査）

インターネットから申込できるようにしたいです。

(杉本委員)

多くの市では、いまだに往復はがきや電話での申し込みにしていますが、若い人はスマホからネットで申込するので、その対応がなされるのかと思い質問しました。了解しました。

(中道委員)

あえて「生涯学習」の言葉を使わないのですか。「くろまる塾」を知っている人は問題ないと思いますが、これから新しく学びたいと思っている人からは分かりにくいと思います。学びの講座がそこにあるということがわかるように、前か後ろにキーワードをつけた方がいいのではないのでしょうか。

(花井主査)

我々担当職員もその点は課題と認識しており、市役所ホームページ（トップページ）にくろまる塾プラスというアイコンを設けて、クリックするとこのサイトに飛ぶようにしようと考えていますが、このアイコンの見出しには公民館や交流センターの講座情報というようなキーワードも入れてわかるようにしたいと検討しています。

(二井課長)

今回の取り組みですが、サイトを作って情報をあげてますというだけ、見に来てもらうのを待っているだけでは使ってもらえないと思います。例えば、市のインスタやフェイスブックにサイトの情報更新があった時は挙げるなどすれば、使ってもらえるようになると思っています。

(木之下議長)

伝わりやすくなるといいと思います。市役所のLINE配信を利用していますが、そこにも更新などされた時に配信されるといいと思います。そうすることで多くの人に知ってもらい使ってもらえるようになると思います。

(木之下議長)

それでは、次第に基づき、報告に移ります。河内長野版「歳時記」について、事務局から説明をお願いします。

(伊藤文化財保護課長)

文化財保護課から、「河内長野版「歳時記」について」報告させていただきます。
一件5の資料に基づき報告。また、日野の獅子舞の練習風景の収録された映像を少し放映—

(木之下議長)

歳時記（冊子のもの）は、市民も購入できるようにしてほしいと思います。
続きまして、令和5年度図書館年報について、事務局から説明をお願いします。

（山本図書館館長補佐）

図書館から、「令和5年度図書館年報について」報告させていただきます。
—配布されている図書館年報より、電子書籍・おはなし会の曜日変更・すいすいひろば・こもれびひろば・マイナンバーカードや交通系ICカードの紐づけの取り組み・デジタルアーカイブ・決算・利用実績・蔵書冊数・有効登録者数（1年に一度でも貸出した人の数）・ICT活用などについて説明—

（木之下議長）

最後に、原田委員から12月に参加いただいた研修「令和5年度中河内・南河内地区社会教育委員研究協議会」についてのご報告をお願いします。

（原田委員）

—令和5年度中河内・南河内地区社会教育委員研究協議会について参加した感想を報告—
会場で配布されたすごろくはよく工夫されていて、子どもたちの学びに役立つのではないのでしょうか。松原市の図書館も楽しく本が読める空間に感じました。本の消毒機をコロナ前に導入しており、先見の明を感じました（河内長野の図書館にも設置されており便利）。松原市のスケートボード場のような取り組みもあるといいと思います。自分が楽しく過ごせたという思い出ができれば、若者も地域愛が育ち、将来、市に貢献してくれるかもしれないと思います。

（木之下議長）

事務局から何かありますか。

（東課長補佐）

案件3「公民館及び市民大学くろまる塾の令和6年度事業計画について」の際に、学びを終わらせない取り組みや探求型になるようのご意見がありましたが、学びを終わらせず、深めていくために、学びの仲間づくりを考えています。ただ、いかに優れたファシリテーターがいても、仲間づくりを市民が求めているのかと感ずることもあり、仲間づくりにアイデアがあればお願いします。

（杉本委員）

仲間づくりを前面に出すのではなく、探求型を前面に出すと結果的に仲間づくりとなり、継続的な学びにつながるのではないのでしょうか。

また、別件ですが、図書館について質問します。アニメ（漫画）は置いているのですか。

（山本図書館館長補佐）

学習漫画のみ置いており、コミックの類は置いていません。コミックを置かない理由は、出版点数が多く、選書が困難であること、また装丁が長期の貸し出しに耐えないものであるためです。

(杉本委員)

最近、ドラマの原作がアニメ(漫画)であることも増えており、子どもたちへの影響力もあります。人生の在り方を学ぶ機会となることも多いと思います。厳選すればいいと思いますが、それを扱うのも一つの方向性。文化も含めて考えてほしいと思います。

あと、案件2についてですが、スポーツ振興という言葉が気になります。国レベルでは今は使「振興」は使いません。振興というのはないものから作ることであり、どうサポートするかという視点からスポーツ推進という言葉にしていくべきではと思います。これは要望としておきます。また、スポーツの基本構想を策定するにあたっては、何のため、だれのためという視点が大事です。例えば、クラブハウスが日本のスポーツ施設には少ないが、スポーツ後にミスしたことなどを談笑したり、話し合う場がなく、仲間づくりする機会がありません。スポーツ後はすぐに帰るしかない。これはもったいないと思います。また、中学校の部活の地域移行の受け皿となるのかといったところも含めて構想を練ってほしい。何のため、だれのためなのか議論してほしいと思います。

(二井課長)

国の流れではスポーツ推進となっていますが、わかりやすい、一般的に受け入れやすいのはスポーツ振興という実態があるのではないのでしょうか。また、本課の課名や基金名もその考えで来ていますが、先々見極めながら考えさせてもらいたいと考えています。スポーツ施設は、これから市として(どうしていくか)まだ持っていないので、考え方を作るときに参考にさせてもらいたいと思います。

(木之下議長)

事務局から他にありますか。

(東課長補佐)

千代田公民館のネーミングライツの取り組みについて簡単に説明させてください。
—配布資料の千代田公民館に関するネーミングライツ契約締結セレモニーの案内に基づいて説明—

(花井主査)

今年度の社会教育委員会議は、今回で終了となります。現在の委員の任期は本年5月31日までとなっております。皆様ありがとうございました。

(木之下議長)

任期が5月31日までと聞いています。これにて、閉会とさせていただきます。皆様お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございました。